

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

3

第一幕 第3場

1521年5月20日 パンプローナ城本丸

登場人物： 騎士 イニゴ・デ・ロヨラ
 司令官・城主 フランシスコ・デ・エレラ
 騎士 ホアン
 副官・兵士・騎士・伝令1・伝令2 大勢

司令官：城主：未明からの戦いで、みなさぞ疲れているだろう。

副官： 総攻撃が始まってから かれこれ三時は経ちます。特に左翼からの攻撃はすさまじいものですが よく持ちこたえています。

城主： 少し攻撃が弱まってきた。今のうちに交代で朝食をとるよう指示せよ。

副官： はっ。(伝令を呼び命令。) 閣下も少しお休みください。ずっと立ち通しで指揮しておられましたから。

城主： 私はいい。それより君が……オッ、あれは何だ？向こうの櫓の木の下だ。

副官： あれは^{おおづつ}大筒です！一つ、二つ、三つ どんどん増えていきます。

伝令1： 申し上げます。正面のフランス兵の数が倍増してきました。左翼の守りのために、正面からこちらの兵を割いたので、今正面は手薄であります。

城主： 敵の司令官はよく見てるのオ。あの丘の上からは、城が丸見えだからなあ。わが方の、弱いところ弱いところを突いてくる。*1

副官： 丘の上のフランスの軍旗が並んでいるところが司令部でしょう。ちょっと正面を見えます。(副官正面に向かい、ややあつて走って帰ってくる。)
今イニゴが正面の応援に駆け付けました。俄然 士気が上がっています。

伝令2： 申し上げます。正面が砲撃を受け始めました。まだ着弾していませんが、大筒が堀のすぐそばまで近づいてきました。

城主： 塔の上で旗を振っているのはイニゴじゃないか？危ない！！
無茶だ！格好の標的になる。

副官：ここからは、顔はよく見えませんが・・・アッ 倒れた。

^{だいつつ}
大筒の玉が当たったようです。

ホアン：司令官、見に行かせてください。

城主： 気を付けていくのだぞ。

ホアン：ありがとうございます。（走り去る。入れ替わりに伝令が駆けつける）

伝令1： 申し上げます。ドン・イニゴ・デ・ロヨラが負傷されました。

城主： やはりイニゴだったか！ 傷は深いのか？

伝令1： 両足とも重傷を負ったようです。意識はありますが、出血がひどいようです。

ホアン：ただいま戻りました。大筒が数門堀の向こう側に据えられ、場内に砲弾が着弾し始めました。守備兵の中から死傷者が出始めました。

城主： イニゴはどうか？

ホアン：大筒の玉が両足の間を突き抜け、片足は完全に折れ、他のはぎも重傷を負ったようです。

城主： もはやこれまでか？ これ以上若者の命を落とさせるに忍びない！

（しばし目をつぶり、腕を組む。十字を切る。静かな声で）

副官、白旗を掲げよ。

【黒い使いの合唱】

♪イニゴよイニゴ ざまー見ろ 傷は深いぞ もうだめだ
痛けりゃ痛いよ 泣けばいい この出血じゃ 助かるまい

【白衣の天使の合唱】

♪ああイニゴ 神と親より ^な 汝が受けし 尊き命
「助けよ」と 神 宣えば み使いら 城へ急ぎ
鉄の玉 ^{なんじ} 汝を打てど み使いは 命救いぬ
この世にて汝が果たすべき ^な 神からの使命のあれば

《かげのこえ＝註》

*1 後にイグナチオは『靈操』の中で次のように述べる。「敵（人々を神から引き離そうとする悪霊のこと）はまた、勝利をおさめ、ほしいものを略奪するために、司令官のように振る舞う。城攻めの軍の隊長が陣を張り、城の兵力とその配置を見て、一番弱いところから攻撃するように、人間の敵も私たちを巡って、対神徳、枢要徳、倫理徳を順次うかがい、永遠の救いのため最も弱く最も手薄と気づいたところから私たちを攻撃し、征服しようとするのである。」「第一週の靈の識別の規定」〔「靈操」327〕